

## CONTENTS

---

- 01 令和元年度北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会の開催について
- 03 部会HPコラムリレー第6弾連載中
- 03 北のミュージアム紀行9「美唄市郷土史料館」
- 05 編集後記

## 令和元年度北海道博物館協会 学芸職員部会総会・研修会の開催について

---

2019(令和元)年9月25日(水)・26日(木)の両日、白老町にて「令和元年度北海道博物館協会学芸職員部会」総会、研修会を開催します。

本研修会は、博物館のまちづくりへの貢献が期待される今日、博物館活動の根幹をなす基本的な技術・素養はもちろんのこと、専門分野以外の基礎・基本を身に付けることも要求されている今日、博物館活動で求められる基本的技術とそれに基づく応用力を身につける契機とし、私たち学芸員が互いに学び合いながらスキルアップすることを目的に開催します。

主 催 北海道博物館協会 共 催 日胆地区博物館等連絡協議会

主 管 北海道博物館協会学芸職員部会

後 援 白老町教育委員会

会 場 白老町コミュニティセンター

(白老郡白老町本町1丁目1番1号 TEL0144-85-2020)

参加対象 北海道博物館協会学芸職員部会会員、ほか当部会の主旨に賛同する者

参加料 1,000円

情報交換会 ホテルいずみ（白老郡白老町虎杖浜312-1 電話：0144-87-2621）  
会費 5,000円 ※飲み物の持ち込み無料です。差し入れ大歓迎です。

宿 泊 白老駅前には大人数が泊まれるキャパがないため、下記のホテルを貸し切り、情報交換会も同じホテルにて開催します。

ホテルいずみ（白老郡白老町虎杖浜312-1）

宿泊代（一泊朝食付）7,000円（相部屋）※部屋の割振は事務局で行います

ア ク セ ス 白老町コミュニティセンター

室蘭本線「白老駅」から徒歩約10分（約650m）

申込方法 別紙申込書で9月17日(火)までに下記宛、郵送、Fax、E-mailで申込  
第一報で申込みした会員は、再度申込不要。

〒058-0024 様似郡様似町会所町1番地 様似郷土館 担当：高橋美鈴

Fax.0146-36-3335 E-mail：samanikyoudokan@future.ocn.ne.jp

※委任状の提出を忘れていた方はお願いします。

## ■ 第 1 日目 2019(令和元)年 9 月 25 日

---

1. 受付 12:30-13:00
2. 開会式 13:00-13:15
3. 研修会 13:15-16:15  
テーマ「資料の貸借マナーと技術の共有化 カルテ作成から梱包まで」

### ■ 研修 1 「アイヌ民具の梱包」

講師 岡田恵介氏 (アイヌ民族文化財団)  
古原敏弘氏 (元アイヌ民族研究センター)

アイヌ民具の梱包や取り扱いについて、事例を挙げての講演を聞き、梱包に使う道具の取り扱いを学び、実際に梱包を行います。また、アイヌ工芸品展を数多く担当してきた岡田氏からその時の梱包について説明をして、日通が使っている段ボールと薄葉紙などと一般の物の違いや使い方を説明しながら、梱包方法について学び、実際に梱包します。

※参加希望者はカッターナイフを持参ください。

4. 総会 16:30-17:45
5. 情報交換会 18:30-20:30  
会場 ホテルいずみ (白老郡白老町虎杖浜 312-1)

## ■ 第 2 日目 2019(令和元)年 9 月 26 日

---

1. 受付 9:15-9:30
2. 研修会 9:30-12:30  
テーマ「資料の貸借マナーと技術の共有化 カルテ作成から梱包まで」  
■ 研修 2 「資料貸借の実際～カルテ作成・注意点～」  
講師 三浦泰之氏 (北海道博物館)

資料を貸借するときの流れやカルテの作成方法、資料を観察する際の注意点を学びます。そして各館園におけるカルテの事例発表と実際にカルテを作成します。

- (1) 資料貸借の流れ～借用申請から返却まで～
- (2) 北海道博物館の貸出カルテの様式と考え方
- (3) カルテ記入の注意点と観察すべきポイント

## カルテ事例報告

---

小規模館で実際に運用されているカルテの実例を紹介し、カルテ設計の考え方や運用の実際について、2館から報告します。

## ワークショップ

---

衣類、木製品、金属製品を各机上に1つずつ設置し、カルテを作成してもらいます。机の台数は人数に応じて増減し、1資料あたり5名前後を基本とします。

## 部会HPコラムリレー第6弾連載中

---

ただいまコラムリレー第6弾、学芸員の”ひみつ道具”が絶賛連載中。第14回は、福島町教育委員会の鈴木志穂さんの「拓本の決め手は手作りの道具」まで連載されています。

コラムリレーのコンセプトは、北海道各地の自然や歴史、博物館の活動・学芸員の仕事をリレー形式で一般の人（全国、高校生以上くらい）に向けて、わかりやすく紹介。1500字以内、画像等2点まで。引き続きコラムリレーの参加者を応募しています。学芸員って、どんな道具を使うの？ウンチクから逸話、道具製作秘話まで、博物館の舞台裏が見えてきます！コラムを書きたい人は、下記担当者までご連絡ください。

いしかり砂丘の風資料館学芸員・志賀健司さん

061-3372 北海道石狩市弁天町30-4 PHONE/FAX 0133-62-3711

ks@mb.infosnow.ne.jp <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>

これまでのコラムや現在進行中のコラムは、「集まれ北海道の学芸員」のHPで読むことができます。

<http://www.hk-curators.jp/archives/category/colmn-4/page/4>

## 北のミュージアム紀行9「美唄市郷土史料館」

---

わが町美唄!やっぱり黒いダイヤは外せない!

北のミュージアム紀行第9弾となる今回は、美唄市郷土史料館をご紹介します。博物館法に基づかない博物館類似施設で学芸員が配置されていないのがちょっと残念。

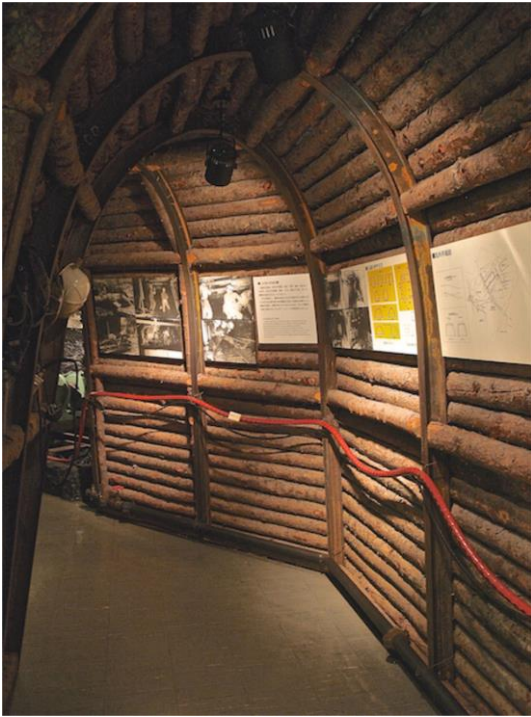
学芸員のみなさま、入ってみたことありますか？展示の並びは、ミニ開拓記念館という感じですが。展示から「私達の街はこれで生きてきた」というという自負が見られ、小さな市町村立資料館としてはかなり面白いです。街中にあるので、美唄焼き鳥を食べに行くだけでなく、一度立ち寄ってみてはどうでしょうか？

入り口のホールから展示室に入ると、「ふるさとの自然」昔の開拓記念館の感じね。北海道の博物館資料館によくあるパターン。

次は開拓の歴史。うんうん、やっぱりよくあるパターン!原生林を切り開き、出来上がってきた町美唄。そうそう美唄も屯田兵の街、茶志内(工兵)・美唄(騎兵)・高志内(砲兵)の3つもあったんだから、屯田兵村は外せないよね。ありゃ？もう終わり？もうちょっとこの屯田兵村のこと知りたかったんだけど～。

でも、やっぱり美唄と言ったら石炭!! 三菱美唄・三井美唄という2つの大きな炭鉱があった町。今でもその息吹は残っている。おっ模擬坑道もある。入ってみよう! 石炭掘ってる! なかなか良く出来ているぞ。囚人労働や朝鮮・中国人の強制労働。大東亜戦争時代の悲しい歴史もあったんだね。それでも、炭鉱があった「三丁目の夕日 夕焼けの詩」の時代、人口約6万人、美唄は活気に満ちていた。テレビも冷蔵庫も車もなかったけど、人の暖かさがあった豊かな暮らし。旧栄小学校のアルテピアッツァ美唄、立坑櫓、電源管理開閉所、原炭ポケット、旧沼東小学校の円形校舎、旧三井美唄の炭礦事務所や炭礦社員や鉱員の炭住群、そして、今でも石炭を掘っている露天掘り砦。それらも合わせて見に行くと楽しいですよ。是非足をお運びあれ!

(齋藤和範・記)



#### 美唄市郷土史料館

住所：〒072-0025 美唄市西2条南1丁目2番1号

電話：0126-62-1110 午前9時～午後5時まで ただし、入館は午後4時30分まで

休館日：毎週月・火曜日

冬期間（11月1日から翌年4月30日まで）。冬期休館中に入館を希望される方は、要問合わせ。

入館料：一般（高校生以上）200円 小・中学生 140円 団体一般（高校生以上）50円  
小・中学生 30円

NHKのプラタモリ、旭川や阿寒・摩周では、再び北の学芸員の仲間が出演されていましたね。特に地元旭川は「単なる観光ガイド」、美瑛・富良野では「内容に偽りあり」という感じで、内容的にはかなりがっかりでした。日本地理学会賞、国土地理院「測量の日」功労者、日本地質学会表彰、地盤工学貢献賞など数々の賞をもらっているのですから、地元学芸員や研究者がちゃんと関わり、じゃらんの観光ガイドではない番組作りに期待したいところです。でも、プラタモリのようなテレビ番組に取り上げられることで、もっと身近な歴史や文化、自然を調査研究している学芸員や博物館がクローズアップされると良いと思います。できれば番組作りに地元学芸員や研究者が積極的に関わっても良いのではとも思います。

令和元年度の北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会のお知らせ、ぎりぎりになり遅申し訳ありません。今回は多くの博物館・資料館に関わる、「資料の貸借マナーと技術の共有化 カルテ作成から梱包まで」、講義だけでなくワークショップも行われますので、非常に勉強になると思います。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

学芸職員部会では入会も随時受け付けております。会員の皆様には職場内や近隣市町村でまだ会員になっていない方がいれば、お誘いいたしますようよろしく願いいたします（齋藤和範・記）。

### 北海道博物館協会 学芸職員部会ニュースNo.92

---

発行日 2019(令和元)年9月18日  
編集 齋藤和範(北海道教育大学旭川校)  
伊藤大介(ニセコ町・有島記念館)  
発行者 北海道博物館協会学芸職員部会  
〒049-3106 北海道二世郡八雲町末広町154番地  
八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館内  
TEL 0137-63-3131 FAX 0137-64-3848

北海道博物館協会 学芸職員部会ホームページ 学芸職員部会入会申込案内

